
成城中学校 成城高等学校

2026年度入試 学校説明会資料

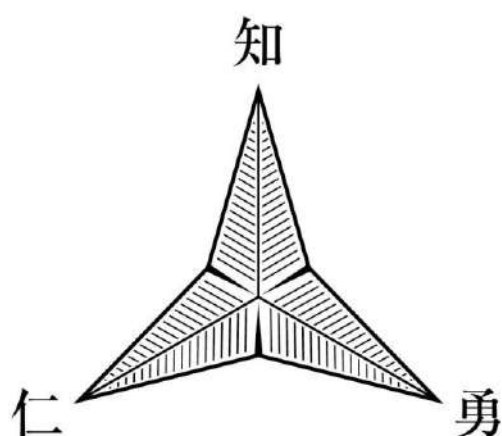
成
城

目次

1. 「哲夫成城」 ― 哲夫ハ城ヲ成ス	1
2. 沿革	2
3. 学習十五則	3
4. 成城の教育 ― 校長 岩本正	4
5. 学級編制と教員配置	5
6. 本校独自のグローバル教育	6
7. 教育・学習体制	8
8. 学校生活	10
9. 文武両道を可能にする校舎	11
10. 生活指導と生徒の安全に関する方針	12
11. 保護者との連携	13
12. 年間行事	14
13. 学友会活動	16
14. 「希望する進路実現」を可能にする進路指導	19
15. 入学試験	26
16. 通学圏	28
17. 諸経費	30
18. よくあるご質問	31

1. 「哲夫成城」 ― 哲夫ハ城ヲ成ス

校章「三光星」



「三光星」の意味するところは
儒教において
基本的な三つの徳とされる
「知・仁・勇」である。

中国の古典『中庸』の「知・仁・勇の三者は達徳なり」より。

「成城」の由来

校名の「成城」は中国の古典『詩経』大雅篇にある「哲夫成城」からとったもの。哲夫とは知徳のすぐれた男子。成城の城は国を指し、国を成すの意。したがって本校の建学の精神は、知徳のすぐれた男子を育て、国家・社会に貢献する人材を輩出することである。明治 18(1885)年に日高藤吉郎によって創立された本校は、令和 7(2025)年 1 月 15 日に創立 140 周年を迎えた。

校 訓

自学自習 質実剛健
敬愛親和 自治自律

2. 沿革

明治 18（1885）年に、日高藤吉郎が創立した本校は、今年で 140 年目を迎えました。

明治 18（1885）年	1 月 15 日「文武講習館」として、京橋区（現中央区）築地に創立。軍人志望の少年の養成にあたる。創立者は日高藤吉郎。
明治 19（1886）年	「成城学校」と改称し、幼年科、青年科を設置、陸軍士官学校・幼年学校への予備教育を施す。
明治 22（1889）年	「官公立尋常中学校と同等以上」認可。
明治 23（1890）年	宮内省より御下賜金を賜る（1919 年まで）。
明治 24（1891）年	宮内省より牛込区原町（新宿区原町の現在地）の校地を下賜され、移転。
明治 31（1898）年	文部省による中学校認可。
明治 32（1899）年	中学校令発布に伴い「成城学校中学科」と改称。
明治 39（1906）年	校歌制定。
大正 6（1917）年	成城学校中学科を「成城中学校」と改称、成城尋常小学校開校。 自習室「自修館」を設置。
大正 7（1918）年	日本で初めての林間学校を長野県中房温泉で開設（一時中断後再開し現在に至る）。
大正 12（1923）年	成城第二中学校併設。
大正 14（1925）年	成城第二中学校を分離、別財団とし、北多摩郡砧村（現世田谷区成城）に移転（後の成城学園となる）。 日本で初めての臨海学校を神奈川県逗子市初声村に開設（戦時中中断後再開し現在に至る）。
昭和 4（1929）年	成城学園財団に成城尋常小学校を移管・移転。
昭和 10（1935）年	創立 50 周年を迎える。
昭和 22（1947）年	学制改革に伴い、新制「成城中学校」発足。
昭和 23（1948）年	学制改革に伴い、新制「成城高等学校」発足。
昭和 30（1955）年	創立 70 周年を迎える。記念事業として牛込成城幼稚園を併設。
昭和 47（1972）年	体育館・小講堂・柔道場・剣道場 竣工。
昭和 54（1979）年	新館（現 3 号館）竣工。
昭和 60（1985）年	創立 100 周年を迎える。
平成 17（2005）年	創立 120 周年を迎える。
平成 24（2012）年	1 号館 竣工。
平成 26（2014）年	2 号館 竣工。新館を改修し 3 号館と改称。
平成 27（2015）年	1 月 15 日、創立 130 周年を迎える。 人工芝のグラウンド・サブグラウンド竣工。自習室「自修館」を新たに設置。新校舎がすべて完成。 6 月 5 日、130 周年記念式典を開催。
平成 30（2018）年	高校募集を非募集とし、中高完全一貫校へと移行開始。
令和 3（2021）年	中高完全一貫校となる。
令和 5（2023）年	台湾国立新竹高級中学と姉妹校締結。
令和 7（2025）年	創立 140 周年を迎える。

3. 学習十五則

本校には、古くから伝わる「学習十五則」があります。これは学習の要諦をまとめたもので、学習習慣の重要性、時間の使い方、理解のメカニズム、課題解決学習など、校訓「自学自習」の精神に貫かれた本校の財産です。生徒手帳に掲載しています。

- 一、 常に自ら学習する習慣を作るは既に得たる知識よりも、其価値遙に大なり。
- 二、 机に向はば直に精神を集中せよ。書冊に対して茫然時間を逸するの愚を学ぶことなかれ。
- 三、 時間を最善に利用せよ。同じき課程を更に少き時間にて収め、同じき時間に更に多く学ぶことを心懸くべし。
- 四、 計画なきものに収穫あることなし。予習復習に対しては、必ず一定の計画を定めて適當の時間を配当すべし。
- 五、 文書を読むには、先ずその大略に通じて、後更に精研すべし。筆を執るには、先ず其想を整へよ。問題を解くには先ず其要所を捉へよ。
- 六、 今日解する能はずんば、明日更に試みよ。解し得ざるも常に之を念頭におかば他日必ず解し得る期あらん。
- 七、 学習して群疑の続出するを歎ずることなかれ。疑問は蓋し発明の母なり。
- 八、 頭脳を最も清新にして、効果ある場合に使用せよ。十分な睡眠と適度の運動とは、頭脳を敏活にする最大滋養物なり。
- 九、 活用せられざる知識は、真の知識にあらず、教科書は之を活用して他書を解し得るに至って、初めて価値あり。
- 十、 教科書参考書にある目録・索引・摘要・注解・地図・挿画等は之を自在に使用する様にせよ。
- 十一、 常に自力にて問題を解くことをつとめよ。自己を創造するの道は、事物に対して自己の判断を下すにあり。
- 十二、 問ふに躊躇する勿れ。答ふるに逡巡する勿れ。伏藏せらるる疑問は氷解する時を得ず。発表せられざる思想は洗練せらるる機を失ふ。
- 十三、 知識は精確にして綿密なるを尚ぶ。條理井然として組織あり系統あるべし。
- 十四、 学問に関係ある事物は、其の人事たると自然現象たるとを問はず、之を観察し実験して、以て研究資料とせよ。学習は、必ずしも教室の内、書物の上には限らざるなり。
- 十五、 学習せる知識技能は常に之を日常生活に応用することを力むべし。深渾なる知識技能は、蓋し応用醇熟の結果なり。

4. 成城の教育 ― 「知・仁・勇」を備えた人間力の高いリーダーを育成する

校長 岩本 正

受け継がれる伝統

本校は、今年で創立140年を迎えました。明治18(1885)年1月に創立された「文武講習館」の校名の流れを汲み、校風には今なお文武両道主義が生きています。また、「成城学校」の校名の由来にある「哲夫成城」の「哲夫」とは、国家に貢献する「知徳に優れた男子」のことです。それは、「知・仁・勇」という3つの徳を備えた人間であり、生徒によってデザインされた校章「三光星」が、その象徴として受け継がれています。

文武両道主義のもと、生徒たちは日常の学習と部活動、生徒会活動などとの両立を目指しています。学内で行われる学校行事や生徒会活動、部活動では様々な異年齢の集団活動があり、それぞれの場面において、リーダーシップを発揮する機会となっているのです。このような教育の機会は古くから見られ、大正14(1925)年から続いている臨海学校はその代表的な行事の1つです。

中学1年生を対象にして行われる臨海学校は、教員のほか、選抜された高校2年生の補助員が参加して、安全に配慮をしています。補助員となった高校生は、責任と誇りをもって中学1年生を指導しつつ、リーダーシップとは何かを学びます。逆に、中学1年生にとっては、高校生は憧れの存在であり、ロールモデルとなっているのです。

また、学内で行われる文化祭も、生徒にとって大切な教育の機会となっています。例年来場者がのべ約1万人にもなるこの行事では、文化祭実行委員会が各団体を取りまとめ、委員全員がリーダーとしての自覚を持って運営しています。このような校風が代々生徒に受け継がれ、リーダーとしての素養を身につけていくのです。

特有な校風の中で、行動指針として継承されているのが、校訓「自学自習」「質実剛健」「敬愛親和」「自治自律」です。学習面では、特に「自学自習」が重視され、校歌や古くから伝わる「学習十五則」にもうたわれ、大正時代にはこの方針の下に「自修館」という図書室兼自習室が設置されました。現在の自修館は、生徒をサポートするチューターが常駐して、18時30分まで開館しています。「常に自ら学習する習慣を作るは既に得たる知識よりも、其価値遙に大なり」(学習十五則)の教えを具現化する場ともいえます。

時流を捉えた変革

昨今、情報技術の様々な変革が起こり、驚くようなスピードで社会が変わりつつあります。生成AIといった人工知能に問いを投げかければ、時間や労力をかけることなく、世界で起こっていることについて、あたかも完璧な情報を得ることができるような気になります。しかし、その情報は本当に信じていいのでしょうか。いかに技術が発達したとしても、その情報が正しいのかを見極めるためには、確かな学力と、人と人の対面による会話、実際に足を運んで自分の目で確かめることが大切であることは変わりません。自分の中に湧き出てくる疑問を解決するためには、対話したり、実際にやってみたりと、本物に触れる実体験こそが重要です。

本校では、生徒がグローバル社会で身につけるべき力とは何かという視点に立ち、様々な研修を立ち上げています。夏休みに学校内で行われる「Global Studies Program」では、多様な文化や価値観を有する国外出身の大学の学生たちと、英語をツールとしたコミュニケーションを通して、議論、企画、発表する力を養いつつ、最終的には一人ひとりの自己確立を目指します。また、実際に海外で様々な経験ができるよう、オーストラリア、台湾、カンボジアでの研修を実施しています。これらの取り組みは、生徒の個性と能力を伸ばすための機会として提供されていて、様々な人々と対話することで自分を見つめ直すことにつながります。

また、ICT機器の活用により、生徒自身が主体的に情報を集めたり、自分自身の考えを整理したりして、様々な人に発信できるようになりました。自らのことを表現する機会の増加は、「自治自律」への確かな足がかりとなります。

伝統校のよさ、男子校のよさ、中高一貫校のよさをいかしながら、これからの時代を逞しく生きるための人間力(知・仁・勇)を育成する学校を目指しています。何でもやってみたくなる知的好奇心の強い男子、素直で元気な男子を成城は待っています。

5. 学級編制と教員配置

5-1 学級編制

本校では、担任・副担任制をとり、各クラスに担任1名、副担任1名を配属しています。また、交友関係を広げるため、クラス替えを毎年行っています。

本校では特進クラスを設けておりません。生徒は、入試という関門をくぐり抜けて入学しますので、生徒間に大きな学力差はありません。成績不振者が出ないわけではありませんが、これは能力の問題ではなく、基本的生活習慣の欠如や、勉強をおろそかにさせている興味・趣味・遊び等に原因があることがほとんどです。このような生徒だけを集めてクラスを編制しレベルを下げた授業を行っても、効果はないと考えます。

成績不振者に対しては、その学年・教科の実情に合わせて補習などを行っています。それでも、様々な理由により、授業についていけない、あるいは学習内容を理解できない生徒については、担任が中心となり、授業中の様子や課題提出状況を調査します。また、保護者からは、家庭学習の様子や時間の使い方などを伺い、個々の生徒に応じた対策を講じます。必要な場合には学年の教員全員で議論し、ご家庭とも密に連絡を取り合って、協力体制を確立していきます。このような方法で、勉学の道に復帰させるようにしています。一方、より高度な学習を望む生徒に対しては、新たな教材を提供するなどし、長期休業中には進学講習などを行っています。

中学校学級編制（2025年度）

	第1学年	第2学年	第3学年
A組	39	39	41
B組	39	39	41
C組	40	39	41
D組	40	39	41
E組	40	40	41
F組	40	40	40
G組	40	40	40
合計	278	276	285
	839		

高等学校学級編制（2025年度）

高等中学校編制（2020年度）					
	第1学年	第2学年	第3学年		
A組	38	文系	文系	30	
B組	38			36	33
C組	38			36	32
D組	37			36	35
E組	37	理系	理系	40	
F組	37			35	41
G組	36			37	33
合計	261	252	244		
	757				

5-2 男女別教員構成と専任教諭年齢分布

	男	女	計	
校長・教頭	3	0	3	
専任教諭	64	5	69	
養護教諭	0	2	2	
非常勤講師	33	10	43	※1
理科助手	2	0	2	
外国語指導助手（ALT）	2	0	2	※2
図書館司書	0	2	2	
スクールカウンセラー	0	2	2	

※1 うち2名は教員免許状を保有するネイティブスピーカー

※2 JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）参加者

年代	計
60代	8
50代	22
40代	16
30代	19
20代	9
合計	74
平均	44.9

6. 本校独自のグローバル教育

各プログラムの実施時期や対象学年については、P14 をご参照ください。

6-1 Global Studies Program

夏季休業中に、中3から高2の希望者を対象として行います。本校では、東京大学の留学生やカリフォルニア大学バークレー校をはじめとする世界のトップ校の学生を招き、1日6時間・5日間の校内研修を2013年度から実施しています。成城生6～7名に大学生(大学院生)1名のチームを作って、議論・企画・発表を英語で行い、「私のアイデンティティ」といった問いから、「学校内フィールドトリップ」・「AIテクノロジーを利用して生活をよりよくする方法を考える」といった企画まで、様々なテーマについて話し合います。こうした議論を重ねることで、自ら課題を発見し解決策を考え(知)、多様な文化を持つ人々と協働しながら(仁)、物怖じせず自分の意見を論理的に表明し実践する(勇)力を養います。

今年度も、これまでの経験をいかしながら生徒の求めるレベルや要望に応じた多様なカリキュラムを作成しているところです。世界のトップエリートとの友好を育むとともに、彼らの学ぶ姿勢を目の当たりにする絶好の機会を得ます。

学生が帰国した後もSNSで交流を続けたり、生徒がカリフォルニアまで会いに行き大学を訪問したり、カリフォルニア大学の学生が卒業後に日本の大学院に入学して再会したりするなど、様々な交流が年々生まれています。こうした積極性や、人生に対する前向きな姿勢こそが、本校の生徒に求められる「勇」であり、グローバルリーダーに不可欠な資質なのです。彼らはそれぞれの進学先においても自己の確立を目指し、グローバルな課題と向き合って活躍しています。

過去に行われたプログラム例

	9:00-9:50	10:00-10:50	11:00-11:50	13:00-13:50	14:00-14:50
DAY 1	オリエンテーション アイスブレイキングアクティビティ	Self-introduction Activity 自分についての3つのポジティブな面に焦点を当てて自己紹介	この5日間を通しての自分のゴール	スモールグループディスカッション1 Globalizationについて考える 今日の振り返り	
DAY 2	スモールグループディスカッション2 Challenge spiritをいかに身に付けることができるか (Positive Thinkingの重要性学ぶ)		英語コミュニケーション力を高める活動(1)	プロジェクト1 理想の英語プログラムを考えてみよう！ 場所、日数、コンテンツ等具体的なプログラムを考え発表し合う 今日の振り返り	
DAY 3	スモールグループディスカッション3 Leadership 自分の憧れのリーダーをシェアし、リーダーとして成功する要件を考える		英語コミュニケーション力を高める活動(2)	プロジェクト2 キャリア探索プロジェクト 今日の振り返り	(14:30～) トピックを選ぶ *くじ引き ↓
DAY 4	スモールグループディスカッション4 日本と海外の大学システムについて	効果的な英語プレゼンテーションについて学ぶ 留学生によるモデルプレゼンテーション(夢とその実現のために努力していること)		プロジェクト3 AIテクノロジーを利用して生活をよりよくする方法を考えよう 各グループに割り当てられたジャンルをAIテクノロジーを使ってどう改善するか考える	
DAY 5	スモールグループディスカッション4 自分の強みを知る 自分に自信を持つ	スピーチの準備 (留学生から英語プレゼンテーション指導) トピック この5日間で自分はどの成長したか。自分の強みを活かしながら世界にどう貢献していきたいか		1人1人による英語スピーチ クロージングセレモニー *留学生コメント *ファシリテーター講評 *修了証の贈呈	

6-2 オーストラリア・グローバルリーダー研修

2015 年度にオーストラリア・クィーンズランド州政府と連携して本校独自のグローバルリーダー研修を開始しました。中3から高2の希望者を対象とし、夏季休業中の8月に実施しています。

この研修では、クィーンズランド州ブリスベン近郊にある複数の学校をホスト校として、生徒は一家庭に一人または二人でホームステイをし、それぞれの学校に通い、授業を受けます。その期間に、クィーンズランド大学を訪問し、「キャンパスツアー」「レクチャーの受講」「大学生とのセッション」などを体験します。

事前研修として、キックオフ・ミーティング、ホームステイ・オリエンテーション、異文化ワークショップ、チームビルディングなどを行います。

現地では、

- ◆ 名門大学での講義や、大学生との交流を体験します。「知」
- ◆ ホームステイを通して、自立力を高め、お世話をしてくださる方へ感謝する心を育みます。「仁」
- ◆ ホスト校で、各自がリーダーシップを発揮し仲間と課題をチームで解決していくというリーダーシップ研修を行います。「勇」

これら「知」「仁」「勇」の体験を通して、自分や日本について深く考え、自らの生き方を考える、11泊12日のグローバルリーダー研修となっています。

6-3 台湾・グローバルリーダー研修

2015、2016 年度に、本校を含む日本の複数の高校が参加する台湾留学サポートセンターによる合同研修に参加しました。これらの経験を活かしながら、2017 年度からは本校独自のグローバルリーダー研修として台湾政府の委託機関である日本台湾教育センターと連携しながら7泊8日で、高1から高2の希望者を対象として実施しています。

本研修の目的は、台湾という地域について学び、現地を訪れることで自らを見つめ直すと同時に、他者の文化や価値観を尊重する姿勢を養うことです。そのために、現地の学生との交流をはじめとする様々な異文化交流の機会を準備しています。

過去の実施例

- ◆ 清華大学での研修、新竹高校生徒との交流 (新竹方面)
- ◆ 歴史的施設の訪問や、文化体験 (宜蘭方面)
- ◆ 淡江大学での中国語や文化研修 (淡水方面)
- ◆ 班別台北探検、淡水老街散策
- ◆ 宿泊先の学生宿舎における現地留学生との交流
- ◆ 夜市での買い物や散策
- ◆ 交流校の生徒宅でのホームステイ体験(新竹・高雄)

事前に、中国語の学習や台湾研究者による講演会を行い、台湾の文化や風土、政治・経済情勢などを学習します。

研修後は、校内で参加生徒による研修報告会を実施し、さらに「研修成果報告書」を作成します。

こうした交流の積み重ねを踏まえ、2023 年には、台湾屈指の名門校である国立新竹高級中学(高校)と姉妹校締結を行いました。

6-4 ニュージーランド・ターム留学

高1の希望者を対象に校内選考を行い、ニュージーランドにてホームステイをしながら、現地校に通学します。時期は3学期(1～4月)です。

6-5 カンボジアキャラバン

2023 年度より、本校独自の新たなグローバルリーダー研修として、カンボジアキャラバンが始まりました。

夏季休業中に約1週間の日程で、高1・高2の希望者を対象にカンボジアに行き、現地調査を行います。そして帰国後に調査結果をまとめ、論文を書き上げ、文化祭や外部の発表会で発表を行うプログラムです。2023 年度はアンコールワットのあるシェムリアップ州で、ダンプヤードにおけるウェイスト・ピッカーの就業実態について調査を行いました。

また、以下の場所で発表の機会を得ました。

- ◆ 国際理解及び国際協力に関する研究発表会(拓殖大学)
- ◆ 「知識との協働による高等学校教育推進事業」指定校及び「SGH ネットワーク校」等によるカンボジア合同研修会(順天高校)
- ◆ 第9回高校生国際シンポジウム本大会(鹿児島市宝山ホール)

7. 教育・学習体制

本校の校訓や校歌には「自学自習」がうたわれ、前述の「学習十五則」では、その方法論が記載されています。中学では、基礎学力の養成と「自学自習」の習慣化に努めます。高校では、進路別クラス編制となり、高2から文系・理系の2コースに分かれます。2021年度から中高完全一貫校化したことにともない、カリキュラムを改編しました。

7-1 2年ずつ3つに分けた教育課程

中高6年を3つに分け、時期に適した指導を行っています。

・基礎学力養成期（中1～中2）

日々の小テストにより学習到達度をチェックし、居残り学習、再テストを通して、自学自習の習慣化を促します。基礎学力の定着を図るとともに、高次の学習への礎石を作ります。

・進路決定期（中3～高1）

様々なキャリア教育を通して将来設計と課題発見を促します。より勉強したい生徒向けの発展講座（中3）や、進学講習（高1～高3）が設定されています。

・実力完成期（高2～高3）

進路別クラス編成になり、長期休業中の進学講習は分野・レベルを細かく分けた多数の講座を開講して「希望する進路実現」をサポートします。

7-2 補習

補習を前提とした授業を行ってはいません。中学レベルを超える高度な内容であっても、かみ砕いて分かりやすく、しっかり身につくよう丁寧な授業を心がけています。また、職員室は開放的な雰囲気なので、休み時間や放課後は質問に訪れる生徒でにぎわいます。

成績が低迷する生徒には、教科担当者の判断で、放課後に居残り補習を行うこともあります。また、学期末に定期試験の成績や課題の提出状況等を参考にして、指名制補習を実施しています。

ただし、補習などを実施しないのが、本来あるべき学校の姿と考えています。本校の補習は、勉強に対する目的意識を高め、家庭での学習習慣が確立されることを目標に置いています。例えば、補習に呼ばれた生徒は、補習優先で、部活動には出られません。生徒は、部活動に参加したいから補習に呼ばれないように努力しています。

7-3 探究学習

中1～高1の4年間、探究サイクルを繰り返し経験します。中1・2ではLHRを利用し、ミニ探究活動を実施します。この段階ではサイクルのなかの〈情報収集〉に焦点をあて経験を

積みみます。中3では週1コマの授業で、前期に商品・企画開発を行います。商品・企画開発の成果発表としてのプレゼンを文化祭にて公開で実施しています。中3後期から高1までは探究論文執筆期間とし、各自で探究論文を執筆します。

7-4 本校独自授業の設置

・数学統計（中1）

統計的思考力の育成に加え、生成AIなどの最新技術も積極的に紹介します。それらの技術を活用することの長短も自ら考えられる、これからの時代に通用する情報リテラシーが身につけられるような、授業を展開します。

・英会話（中1～中3）

教員免許を保有するネイティブスピーカーと日本人教員のチームティーチング形式で行う英会話の授業を、各学年で行っています。英語を通して、コミュニケーション能力の向上を図ります。

・国語表現（中1～中2）

プレゼン力の養成を目的とした授業です。中1では資料なしの発表を行い、中2ではスライドなどの資料も作成します。図書館と連携しながら様々な書籍に触れつつ、タブレットを利用してから情報を得つつといった、実学的な授業となります。プレゼンや小論文など表現物を作成するための土台作りを目標とした授業です。図書館と連携しながら様々な種類の書籍に触れつつ、タブレットで情報を調べつつ、様々な表現物を作成します。

7-5 DXハイスクール

本校は、令和6年度より「高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）」の採択校となりました。2号館2階にあるコンピュータ教室に、3Dプリンタ、3Dスキャナ、ハイスペックPC等を導入して、デジタルものの作りの環境を整備しました。また、2号館4階にある技術室にはレーザーカッターを導入し、CAD（Computer Aided Design）を用いて、木材、プラスチックなどの加工が可能となっています。生徒向けに講習会等を開いてこれらのICT機器の活用場面を拡大し、探究的・文理横断的・実践的な学びに対してより強く関心を持ってもらうよう努めています。

7-6 高校の科目選択とコース分け

高1では、音楽・美術の選択があります。

高2からは、生徒の志望に基づき文系コースと理系コースに分かれます。文系では地理探究・政治経済、化学基礎・地学基礎、理系では、地理探究・政治経済、物理・生物の科目選択を行います。

高3も文理の2コース制を継続し、文系では世界史・日本史・地理・政治経済、演習科目で世界史・日本史・地理・政治経済・数学、理系では演習科目で物理・化学・生物の科目選択を行います。選択科目を多数用意することで、近年の大学入試方式の多様化に対し柔軟な対応ができます。

中学校教育課程（2026年度入学生）

	1年	2年	3年	合計
国語	5	5	5	15
社会	4	4	4	12
数学	5	5	5	15
理科	4	4	4	12
英語	5	5	5	15
英会話	1	1	1	3
音楽	2	1	1	4
美術	1	2	1	4
技術家庭	1	2	2	5
保健体育	3	3	3	9
道徳	1	1	1	3
探究			1	1
総合的な学習	(1)	(1)	(1)	(3)
特別活動	1	1	1	3

中3で「公共」2単位を特例利用で実施する。

高等学校教育課程（2026年度入学生）

教科	科目	標準 単位	必修 科目	高1		高2				高3					
				必修	必修選択	文		理		文		理		自由 選択	
						必修	必修選択	必修	必修選択	必修	必修選択	必修	必修選択	自由 選択	自由 選択
国語	現代の国語	2	必修	2						1	1~2				
	言語文化	2	必修	3											
	論理国語	4				2				3					
	文学国語	4													
	国語表現	4													
	古典探究	4				3			3						
	論理国語α							2							
	古典探究α							2							
	現代文演習											[2]			[2]
	古典演習											[2]			[2]
地理 歴史	小論文演習											[2]			[2]
	共通テスト国語											[2]			[2]
	地理総合	2	必修	2											
	地理探究	3				2		2							
	歴史総合	2	必修	2											
	日本史探究	3				4									
	世界史探究	3				2									
	文系地理											5			
	文系日本史											5			
	文系世界史											5			
公民	共通テスト地理														[2]
	世界史演習									3					
	日本史演習									1					
	地理演習									1					
	世界史論述											(2)			
	日本史論述											(2)			
	地理論述											(2)			
	公共(中3で履修)	2	必修												
	政治・経済	2				2		2							
	倫理	2													
数学	文系政治経済									1	5				
	政治経済演習														
	共通テスト公共、政治・経済														[2]
	数学Ⅰ	3	必修	3											
	数学Ⅱ	4				3		4							
	数学Ⅲ	3												3	
	数学A	2		2											
	数学B	2				2		2							
	数学C	2												2	
	数学演習									3				3	
理科	共通テスト数学ⅠⅡABC											(2)			
	科学と人間生活	2													
	物理基礎	2		2											
	物理	4	科学と人間生活 +基礎1 または 基礎3 必修					3						2	
	化学基礎	2				2		2							
	化学	4						3						2	
	生物基礎	2		2											
	生物	4												2	
	地学基礎	2				2									
	地学	4													
外国語	共通テスト理科基礎													[2]	
	物理演習														3
	化学演習													3	
	生物演習													3	
	英語総合									3			3		
	英語読解									3			3		
	英語会話											(2)			(2)
	英語演習											(2)			(2)
	家庭基礎	2	いずれか必修			2		2							
	家庭総合	4													
家庭 情報	情報Ⅰ	2	必修	2											
	情報Ⅱ	2													
	共通テスト情報									1				1	
	総合	3~6	必修	1		1		1		1				1	
	総合的な探究の時間	3	必修	1		1		1		1				1	
	特別活動														
	合計			32	2	30	4	29	5	16	4	5~10	0~4	20	3
	合計														3~6
	合計														0~5

8. 学校生活

8-1 時程

充実した学校生活を送るためには、規則正しい生活習慣が必要です。登校時の安全を確保するためにも、生徒には余裕を持って8時20分までに登校するように指導しています。

なお、土曜日は授業が4時限目で終了し、午後はクラブ活動等の時間にあてられます。クラブ活動等終了と最終下校の時刻が、4月～10月と、11月～3月で異なるほかは、年間を通して同じ時程です。

朝ホームルーム	8 : 30～ 8 : 40
1 時限目	8 : 40～ 9 : 30
	10分休憩
2 時限目	9 : 40～10 : 30
	10分休憩
3 時限目	10 : 40～11 : 30
	10分休憩
4 時限目	11 : 40～12 : 30
	昼休み
5 時限目	13 : 10～14 : 00
	10分休憩
6 時限目	14 : 10～15 : 00
帰りホームルーム 教室清掃	15 : 00～
クラブ活動等	～18 : 00 (4月～10月)
	～17 : 00 (11月～ 3月)
最終下校	～18 : 30 (4月～10月)
	～17 : 30 (11月～ 3月)

※11月～3月の期間で、特別遅延が認められた場合、活動は18:00までとなり、完全下校は18:30になります。

8-2 カフェテリア・食品販売等

カフェテリア（198席）

1号館1階にあり、中1から利用できます。朝食をとらずに登校した生徒や、早目に昼食をとりたい生徒のために、9時30分から営業しています。

メニュー例

かけうどん・そば	330円
たぬきうどん・そば	340円
きつねうどん・そば	350円
カレーうどん・そば	370円
天ぷらうどん・そば	380円
カレーライス	360円
からあげ丼	480円
ラーメン（醤油・塩・味噌）	420円
九州とんこつラーメン	460円
アラカルト	480円
かつ丼	480円
カツカレー	470円
日替わりランチ	500円

自動販売機

計11台が設置され、各種飲料（スポーツドリンク・お茶・コーヒー・ミネラルウォーター等）や軽食（おにぎり・サンドイッチ・プリン等）が販売されています。

9. 文武両道を可能にする校舎

9-1 学習環境

職員室

「先生と生徒の距離が近い」のが本校の特長です。開放的な雰囲気、質問コーナーと面談室を設けています。また、自習室「自修館」・進路指導室が同じフロアにあり、生徒が学習・進路の相談をしやすい環境が整っています。こうした環境で「自学自習」の習慣化と、希望する進路実現を目指します。

普通教室

授業やホームルームを行い、生徒が最も長い時間を過ごす空間です。プロジェクター・Wi-Fi・冷暖房に加え、加湿器・熱交換換気・CO₂濃度センサー・自動調光機能を備えており、快適な学習環境となっています。

図書館

蔵書数3万9千冊。73席の閲覧席のほか、くつろいで利用できるソファ席もあります。プロジェクターやWi-Fiを備え、タブレットを利用した探究活動やグループワークでも活用されています。常駐の司書2名が、授業や探究活動の支援を行っています。

コンピュータ教室

1人1台ずつのデスクトップコンピュータとWi-Fi環境を

備え、生徒の所有するタブレット端末を併用することができます。主に中学1年次の数学統計と高校の情報科の授業で利用します。

自習室「自修館」と進路指導室

第9代校長の澤柳政太郎（東北帝国大学・京都帝国大学総長歴任後、本校に着任）が、「自学自習」の実践を目指して、1917（大正6）年に「自修館」を設置しました。そこで新校舎に設置した自習室（70席）を「自修館」と呼び、7時30分から18時30分まで開館しています。隣接する進路指導室には各種資料・データが揃い、放課後にはチューターが常駐しています。

イングリッシュ・ルーム

ペアワーク・グループワークがしやすい机、プレゼンテーション用のステージとスクリーンを設置し、主に英会話の授業で利用します。

実験室・講義室

化学・生物・物理実験室（各室4席×12テーブル）と、地理地学講義室があります。実験器具のみならず、大型液晶モニターや移動式電子黒板などの設備を整えています。理科助手が2名常駐しています。

トレーニングルーム

地下体育室に隣接するトレーニング施設で、主に運動部が利用しています。

屋外温水プール

温水を使用するため5月下旬から9月末まで利用できます。体育の授業や水泳部の活動で利用しています。

サブグラウンド

正門を入って右手に広がる砂入り人工芝のグラウンドです。体育の授業やテニス部の活動で利用しています。

屋上多目的スペース

グラウンドと同じ仕様の人工芝スペースです。体育の授業やクラブ活動で利用しています。

柔道場

衝撃を吸収する量を使用し怪我のリスクを軽減します。柔道の授業や柔道部の活動で利用しています。

剣道場

主に剣道部が利用しています。

9-2 体育施設

人工芝のグラウンド

本校の人工芝は、国内トップクラスのゴムチップ入りで、天然芝に近い仕様になっており、怪我のリスクを軽減します。陸上競技用の全天候型タータンコース（75m直線×2レーン）・走り幅跳び用の砂場も整備されています。放課後は、サッカー部・野球部・陸上競技部が活動しています。

体育館

冷暖房が完備され、バスケットボールコート2面（バレーボールコート4面）がとれ、観客席を有する体育館です。放課後は中高バスケットボール部・中高バレーボール部・バドミントン部が活動しています。

地下体育室

冷暖房や音響設備が完備されており、体育の授業や学年集会などに利用されます。また、充実した体操競技設備や、10台の卓球台が整っており、放課後は体操部・卓球部・ジャグリング部が活動をしています。

10. 生活指導と生徒の安全に関する方針

10-1 生活指導

本校の黒詰め襟学生服には、知・仁・勇をあらわす三光星が右襟に光り、成城生の進むべき方位を示しています。生活指導では、生徒の成長段階に応じて、他律から自律へと促し、自主自立の精神の修養を目指しています。

知 本校では授業を、知性を高める第一の機会と捉え、授業規律の遵守、時間厳守、不要物の持ち込み禁止を指導しています。授業を大切にすることが軸として学習環境を整えるとともに、文武両道の実践、本校の校訓の1つ「自学自習」、すなわち学習習慣の確立を目指します。

仁 本校では、仁の心を育て、大人として自立していくための教育として人とのかかわりを重視しています。仁は「敬愛親和」の精神であり、その基本は、個々の自立と、自他の命・財産を大切にする姿勢にあります。人を傷つける言葉や暴力、いじめは絶対にあってはならないことです。トラブルが起きた場合は、ご家庭と協力しながら指導を行っています。なお、成長期の生徒には、発達段階に応じた対応が必要です。担任などによる個人面談・三者面談のほか、スクールカウンセラーを配置し、成長過程における様々な悩みに対応しています。

勇 本校には様々な課外活動があります。こうした活動には生徒間の協力・役割分担と切磋琢磨が不可欠になります。自ら状況を判断し、自らの責任で決断するため、失敗も多く生まれます。しかし、試行錯誤の機会を何度も与えることで良い失敗と悪い失敗を見きわめる目を養い、他律から自律への移行を促すことができます。本校はこうした数々の挑戦を大切にし、自ら考え、自ら行動する自主自立の精神と、どのような困難があろうともやり抜く勇の気概を涵養します。

知・仁・勇を備える者は、自他を大切にできる余裕を持ち、社会貢献の視点から自ら行動することができます。こうした徳性は、時代を問わず必要とされる普遍的な資質です。

本校の生活指導は、生徒と教師の間の厚い信頼の上に成り立っています。堅実な生活指導を通して理想的な生活習慣の確立を促すとともに、次代にも通用するたくましさとしなやかさを鍛えます。

10-2 いじめ対策委員会

「いじめ防止対策推進法」に基づき、校長・教頭・生活指導係主任・各学年主任・養護教諭・スクールカウンセラーで構成しています。狭義の「いじめ」のみならず、生徒指導案件全般について情報を共有・議論し、担任や顧問の教員が当該生徒とどのように対していくのが良いのかを、共に考える場として機能しています。具体的には、それぞれの案件や生徒に応じて、どのような指導方法や解決の仕方が適切であるのか、ご家庭とどのように連携するのが望ましいのかなどについて、過去の事例や教員の知見、昨今の社会情勢などに照らし検討しています。問題が発生したときに担任だけで抱え込むのではなく、学校全体で取り組むべき問題ととらえ、教員の英知を集めて最適解を得られるように努めています。

10-3 携帯電話持ち込み禁止

本校は、学習環境を整備し、安心できる学校生活を保証するため、教育的観点から携帯電話の持ち込みを禁止しています。現在、情報化社会では不可欠なツールである反面、学習の妨げ・人間関係の障害になるケースも少なくありません。こうした問題は、ご家庭や学校の目の届きにくい場所で起きやすく、時に社会的な大事件に発展することもあります。本校では、携帯電話の持ち込みを禁止するとともに、緊急時の連絡手段を講じています。

10-4 緊急時の連絡

台風や大雪などの自然災害による緊急時の情報発信は、事前に登録された連絡先へ配信するシステムを導入しています。

10-5 「登下校時の緊急避難校ネットワーク」

東日本大震災を教訓に、東京・神奈川の私立小中高計 650校が連携し、帰宅困難者が出た場合は、他校の生徒であっても受け入れ、在籍校には生徒の所在と安否の情報を提供する仕組みを構築しています。本校はこれに加盟しています。

10-6 災害時の備蓄

緊急時に備えて、生徒・教職員全員の食糧・水・寝袋・簡易トイレなどが備蓄されています。

10-7 新宿区の一次避難所

耐震性に優れた校舎をもつ本校は、新宿区の一次避難所として指定されています。また、大きな医療機関に囲まれており、安全性の極めて高い校地です。

11. 保護者との連携

生徒の成長には、教師・保護者間の信頼関係と連携が大切です。本校には、教師と保護者をつなぐ「師親会」があり、大きな役割を果たしています。

11-1 学校だより

学期の区切りに5回程度発行しています。校長からのメッセージ、卒業式の式辞、新任教員の挨拶、各学校行事・学友会活動、大学合格状況などの報告を通して、日常の学校生活の様子をお伝えしています。

11-2 学年通信

各学年が学校や生徒の近況について不定期で発信しています。生徒の作文、生徒会や部活動での活躍、定期考査の講評、生活指導上の注意など、内容は多岐にわたります。

11-3 保護者会

全体会・クラス会を、年間におおむね3回行い、授業参観・懇親会を兼ねることもあります。学年の構成、担任紹介、生活指導上の注意、年間の指導目標、カリキュラムと進路計画、宿泊行事、会計報告など、学年・学期に応じてお話をさせていただきます。

クラス会では、担任・学年担任の挨拶、保護者の皆様の自己紹介などを通して、クラス・生徒の様子を共有する機会になっています。また、保護者同士が交流を深めるきっかけにもなっているようです。

11-4 師親会

PTAを、本校では「師親会」と呼んでいます。各クラス2名の方が委員に選出され、総会・クラス懇親会・学年委員会・全体委員会・役員会等を運営しています。また、文化祭ではバザー・喫茶室・成城グッズの販売などをし、中学校・高等学校の各最終学年では、卒業記念事業を企画運営します。

11-5 面談

思春期の子どもの成長には、学校とご家庭の連携が大切です。個人差はありますが、年齢が上がるにつれて、家で話をしなくなり、「学校の様子がわからないのですが」という声をいただくことも珍しくありません。また、学校での顔とご家庭での顔が異なる場合もあるので、生徒に関する事柄は、学校とご家庭で共有する必要があります。

そこで、本校では必要に応じて随時面談を行います。担任・保護者の二者面談のほか、内容によっては学年主任も交え、時には養護教諭が対応することもあります。

また、学年半ばの11月を中心に生徒全員を対象に三者面談を行います。話題は、学校生活・学業・進路から、家庭生活の様々な面にまで及びます。担任・生徒・保護者の三者が直接話すことで、相互理解を深める機会となっています。

11-6 スクールカウンセラー

スクールカウンセラーが、成長過程における様々な悩みに週4日で対応しています。なお、カウンセリングは、生徒はもちろん、保護者も受けることができます。

11-7 本校公式サイト

本校公式サイト (<https://www.sei Jogakko.ed.jp>) では、「校長室便り」や、日々の「最新情報」など、様々なコンテンツを通して、本校の教育活動を発信しています。

11-8 連絡網

「さくら連絡網」という連絡サービスを利用して、各家庭向けにメールあるいはアプリへ一斉送信するシステムを導入しています。保護者会のお知らせや、台風や大雪時連絡に加え、各種アンケートの回収などにも活用しています。

12. 年間行事

「学習十五則」には、「学習は、必ずしも教室の内、書物の上には限らざるなり」とあり、行事を大切な学習機会ととらえています。林間学校・臨海学校を、全国に先駆けて開設したのも本校であり、今日までその伝統は脈々と受け継がれています。

学期	月	中	高	行事
1	4	●	○	入学式
		●		新入生歓迎会
	5	●	○	春季校外課業（遠足）
		●	○	健康診断
		●	○	五月考査（中間試験）
		●		中学行事①
	6	●	○	視聴覚行事①
	7	●	○	七月考査（期末試験）
			○	高校体育祭
		●		臨海学校（中1）
		●		林間学校（中2）
	8	●	○	各クラブ合宿
		●	○	オーストラリア・グローバルリーダー研修（中3～高2希望者）
			○	カンボジアキャラバン（高1・高2希望者）
		●	○	Global Studies Program（中3～高2希望者）
2	9	●	○	文化祭
	10	●		中学運動会
		●	○	十月考査（中間試験）
		●		中学行事②
	11	●	○	視聴覚行事②
	12	●	○	マラソン大会
		●	○	十二月考査（期末試験）
3	1	●	○	創立記念日（1月15日）
		●	○	英検 準会場実施（高3以外）
			○	ニュージーランド・ターム留学（高1希望者 4月まで）
	3	●	○	三月考査（期末試験）
		●		スキー学校（中2）
		●	○	修学旅行（中3・高2）
		●	○	卒業式
			○	台湾・グローバルリーダー研修（高1・高2希望者）

春季校外課業（5月）

学年ごとに実施される遠足です。宿泊を伴うこともあります。この数年では、以下のような場所に行っています。

箱根、山中湖、河口湖、高尾山・陣馬山、景信山、御岳山、相模湖、秩父、鎌倉・江ノ島、筑波山・筑波研究学園都市。

中学行事（5月・10月）

中学生は、中間試験の翌日に、半日を使って社会科見学や博物館見学をします。本校周辺には大学や研究施設、博物館・美術館が多くあり、座学では得がたい知見を広げることができます。班行動を主とし、班長のリーダーシップとそれを支える班員の協力がみられます。

視聴覚行事（6月・11月）

年2回、春と秋に実施されます。音楽・演劇・ミュージカル等を鑑賞します。

高校体育祭（7月）

学年別クラス対抗の競技会です。生徒たち自身が「楽しむ」ための体育祭を作りたいという趣旨で、生徒会が運営している行事です。サッカー・バスケットボール・ドッジボール・卓球・クラス対抗全員リレー等を行います。各クラスは、ユニフォームを揃えたり、朝練習・昼練習を行ったりと、優勝を目指して準備します。また、教員チームも編制され、生徒チームと対戦します。大いに盛り上がり、クラスの親睦を深める絶好の機会にもなっています。

臨海学校（7月）

本校の臨海学校は、全国に先駆けて1925（大正14）年に開設されました。現在中1を対象に、千葉県南房総市の岩井海岸において3泊4日で実施しています。生徒たちはまず、泳力に応じて、上級・中級・初級に分かれます。その級をさらに小さく分けて、十数名の班を編制します。各班には、教員3名と、高2から選抜された指導補助員3名を配置し、安全を確保します。上級は遠泳を行い、中級は遠泳に準ずる距離・時間を泳ぎます。初級は、その中でもさらに細かく泳力別に班を分け、泳ぎが苦手な生徒は海に親しむことから始めていきます。海で互いの安全を確保しながら、泳ぐことができるようになることを目標としています。

林間学校（7月）

本校の林間学校は、全国に先駆けて1918（大正7）年に開設された伝統行事です。現在中2を対象に、信州において2泊3日で実施しています。トレッキングや林業体験に加え、近年では3～4名の班に分かれて農村のご家庭で民泊をしています。学校や日常生活では経験できない自然や人との触れ合いを通して、生徒たちは一回り大きく成長します。

文化祭（9月）

中高共通の行事で、9月中旬の土日を利用して行われます。準備期間と片づけの期間を合わせて約1週間、クラスごとで行う出し物のほか、文化部の研究発表や、運動部の招待試合、有志団体の企画など、全生徒がいろいろな角度からかかわる大きな行事です。本校への受験を控えた小学生・保護者の方々をはじめ、他校の生徒や近隣住民の皆様など、のべ1万人のお客様でにぎわいます。

中学運動会（10月）

騎馬戦といった伝統的な競技種目や徒手体操など、男子校らしさが出る行事です。また、学年ごとに行われる全員リレーは、クラスの結束力を高め、大いに盛り上がります。本校のグラウンドで実施します。なお、一般公開はしておりません。

マラソン大会（12月）

埼玉県国営武蔵丘陵森林公園において、中学生は9.5キロ、高校生は10キロを1時間半以内で走破します。豊かな自然の中で、旺盛な気力と忍耐力を培って精神の充実をはかり、健脚を養って体力の向上と健康の増進に役立てています。怪我や体調不良に備えて、医師が待機しています。運動部に所属する生徒たちにとっては各部会対抗戦の趣のある行事です。

スキー学校（3月）

中2対象の行事です。長野県志賀高原で2泊3日で行います。各班に現地のインストラクターがついて指導を行うので、初心者でも安心して参加することができます。

修学旅行（3月）

中3と高2の時に3泊4日で実施され、歴史・文化・自然を学びます。高校では複数コースから選択することもあります。また、テーマを設定して事前学習も行います。近年では沖縄・北海道・関西等に行っています。

Global Studies Program（8月）

オーストラリア・グローバルリーダー研修（8月）

台湾・グローバルリーダー研修（3月）

ニュージーランド・ターム留学（1～3月）

カンボジアキャラバン（8月）

説明はそれぞれp.6～p.7にあります。

13. 学友会活動

本校では、部と同好会を総称して「学友会」と呼んでいます。中1のほぼ全員が参加し、中学生全体の参加率は約90%、高校生全体の参加率は約70%となっています。

本校は「文武講習館」として創立以来、文武両道をうたっています。スポーツ推薦入試は行わないので、運動の不得意な生徒も、楽しく活動しています。本校の学友会活動は、全ての生徒にとって、自分を表現する場であり、健康で強靱な身体づくりや仲間づくりができる場であると考えています。

活動は主に放課後に行われます。終了時刻は、夏期（4月～10月）が午後6時、冬期（11月～3月）が午後5時となっています。冬期であっても特別遅延が午後6時まで認められることもあります。多くの学友会が夏休みに合宿を行います。活動日数の少ない学友会では、複数をかけ持ちしている生徒もいます。

運動部	中学硬式テニス部	中学サッカー部	中学バスケットボール部
	条件には恵まれていませんが、高い団結力と向上心で2019年に続いての全国大会出場を目指して頑張っています。	「和を以って技を征す」サッカーを目指し、心を以って心を伝えられる人間を育成する。	「絆を力に」感謝の気持ちを忘れずに。仲間と共に全力を尽くすことを目標にしています。
活動日数・部員数	週3日基本・90名	週5日・84名	週5日・46名
中学バレーボール部	中学野球部（軟式）	剣道部	柔道部
活動を通して仲間を大切にす心、感謝の心を育てます。目標は東京都大会ベスト8です。	大会で勝つことを目標としていますが、挨拶・礼儀に関しても日々指導しています。	上級生が練習内容を工夫し、下級生の面倒をよく見るなど生徒が主体的に運営しています。	未経験でも無理なく活動できます。礼節を重んじ、心身ともに鍛えることができます。
週5日・20名	週5日・45名	週4日・20名	週5日・15名
水泳部	体操部	卓球部	バドミントン部
地道に練習して泳力を向上させ、大会出場での自己ベスト更新を目指します。	関東大会出場を目標に、和気あいあいと練習に励んでいます。	初心者歓迎。高校は月水金、中学は火木土に地下体育室で活動しています。	初心者から上級者までバドミントンを楽しんでいます。活動は中高一緒です。
週4日・73名	週5日・17名	週3日・中学37名、高校12名	週2日・75名
陸上競技部	高校硬式テニス部	高校サッカー部	山岳部（高校のみ）
中高一貫で短距離、中長距離、跳躍の3ブロックに分かれて練習をしています。	各自が技術の向上を目指し、楽しく練習をしています。一緒にやりましょう。	「明るく、楽しく、元気よく」をモットーに、心技体の向上に努めています。	創部から100年を超える部です。夏休み中に合宿を行います。他のクラブとの兼部も可能です。
週5日・38名	週3日・59名	週5日・50名	週1回程度・20名
高校バスケットボール部	高校バレーボール部	硬式野球部（高校のみ）	高校相撲部（高校のみ）
「規律・協調・研鑽」を軸とし、バスケットボールを通じて人間性を磨くことを目指します。	人間的な成長を競技力の向上につなげ、関東大会に出場することを目指しています。	野球に取り組む姿勢、礼儀、感謝の心を大事にしながら、甲子園を目指しています。	未経験者歓迎。相撲に親しみつつ、関東・全国大会出場が目標です。体重別大会あり。
週5日・30名	週5日・16名	週5日・33名	週2日・4名
自転車競技部（高校のみ）			
都内では数校だけの珍しい部です。ロード、トラック競技で全国大会上位入賞を目指します。			
週3日程度・11名			

文化部	囲碁部	演劇部	科学部
	初心者でも参加できます。卒業までにはほぼ全員が有段者になります。	演技の中ではどんな人にも成りかわることができる。楽しくアットホームな部活です。	電腦班はプログラミングを、生物班は野外活動と魚類の飼育を行っています。
活動日数・部員数	週2日・4名	週2日・14名	週4日・69名
合唱部	ジャグリング部	写真部	吹奏楽部
J-POPから合唱曲まで幅広いジャンルの曲を演奏会に向けて楽しく練習しています。	初心者でも丁寧に指導しているので、約1年でイベントに参加できるようになります。	デジタルカメラの撮影を中心に各種コンテストに積極的に参加し腕を磨いています。	定期演奏会やコンクールに向けて、楽しく活動しています。初心者がほとんどです。
週2日・12名	週2日・50名	週1日・18名	週5日・36名
速記部	地理研究部	鉄道研究部	美術部
週3日の活動日のうち1回来てもらえれば結構です。他の部会との兼部也大歓迎です。	地図を持ち、徒歩や自転車などで野山に出かけたり、春と夏に合宿をし、地球・世界・日本各地を調べています。	鉄道施設訪問、ジオラマ製作、夏の合宿、研究論文発表を中心に活動しています。	上手下手は問いません。楽しく幅広く活動しながら美術展入賞を果たしています。
週3日・12名	週3日・50名	週3日・33名	週3日・11名
放送部	歴史研究部		
文化祭のときに上映するビデオ作品制作と昼休みの校内放送をしています。	ふだんは文化祭での発表を目標に研究を行い、ときどき博物館や史跡見学に行きます。		
週2日・20名	週1日・15名		

同好会	古典ギター同好会	将棋同好会	数学研究同好会
	クラシックギターに限らず弾いています。合奏をコツコツと練習しています。	初心者から上級者まで、将棋好きが集まった楽しいクラブです。	例年数学に関するテーマを決めて、秋の文化祭でその成果を発表しています。
活動日数・会員数	週2日・14名	週2日・17名	週2日・6名
スキー同好会	中学相撲同好会	釣り同好会	文芸同好会
冬・春の休業中の合宿で、プロのインストラクターからレッスンを受けています。	未経験者歓迎です。相撲に親しみつつ、高校とともに関東・全国大会出場が目標です。	魚が大好き、釣りが大好き。海釣りを中心に活動しています。	小説を読むのが好きな人、文章を書くのが好きな人が集まり和気藹々と活動しています。
合宿のみ・30名	週2日・2名	月1日・22名	週1日・8名
			

各学友会の2024年度の主な成績

学友会名	主な成績
中学硬式テニス部	・テニス選手権第2ブロック大会シングルス5位、ダブルス2位・テニス選手権都総体都ベスト16 ・東京Jrテニスチャンピオンシップ優勝
中学サッカー部	・東京都中学校総体予選第2支部代表 ・東京都中学校総合体育大会東京都ベスト8 ・東京都リーグ（Tリーグ）出場
中学バスケットボール部	・東京都中学校総合体育大会バスケットボール大会新宿区3位 ・東京都中学校バスケットボール新人大会新宿区3位
中学バレーボール部	・東京都総合体育大会出場 ・東京都新人大会出場 ・新宿区総合体育大会優勝 ・第2ブロック総合大会5位 ・新宿区新人大会優勝 第2ブロック新人大会準優勝
中学野球部	・第2ブロック秋季大会優勝・ ・東京都中体連秋季大会ベスト32 ・新宿区少年連盟夏季大会準優勝 ・東都少年野球大会出場 ・第2ブロック選手権大会3位 ・新宿区総合体育大会準優勝 ・東京都私立学校野球大会ベスト16
剣道部	・（中学）東京都中学校秋季剣道大会新人大会出場 ・（高校）全国高等学校剣道大会東京都予選出場 ・東京都高等学校新人剣道大会出場
水泳部	・（中学）東京都中学校選手権水泳競技大会4名出場 ・新宿区民総合体育大会水泳大会総合優勝 ・（中学）第72回東京都中学校学年別水泳競技大会7名出場（50mバタフライ8位） ・（高校）東京都高等学校春季水泳競技大会6名出場 ・東京都高等学校長水泳競技大会2名出場 ・（高校）東京都高等学校新人水泳競技大会9名出場（200m個人メドレー：B決勝3位） ・（高校）東京都高等学校長水路記録会16名出場 ・東京都高等学校短水路記録会15名出場
陸上競技部	・（中学）第67回私学大会（800m5位、1500m2位、3000m4位&7位、4×100mリレー7位、走幅跳5位、総合7位） ・（高校）第77回新人陸上競技大会出場 ・東京都高等学校陸上競技対抗選手権400m8位
高校バレーボール部	・関東大会予選都ベスト40 ・インターハイ予選都ベスト48 ・新人一次大会都ベスト32 ・全日本選手権一次予選都ベスト32 ・新人決勝大会出場
硬式野球部	・全国高等学校野球選手権大会東東京大会ベスト32・秋季東京都高等学校野球大会ベスト32
体操部	・（中学）東京都中学校体操競技選手権大会団体総合5位・東京都中学校体操競技新人大会団体総合優勝 ・（高校）関東高等学校体操競技大会東京都予選大会 団体総合5位 ・（高校）東京都高等学校体操競技新人大会 団体総合2位・個人総合2位・跳馬3位
高校相撲部	・第72回関東高等学校相撲大会 個人・70kgの部第3位、第5位 ・東京都高等学校春季相撲大会 個人・70kgの部優勝、第2位、第3位 -80kgの部第3位 ・東京都高等学校秋季相撲大会個人 個人軽量級の部第2位、第3位 ・東京都高等学校新人相撲大会個人 個人80kg級の部第2位、第4位
速記部	・全国高等学校速記競技大会28年連続出場
自転車競技部	・令和5年度全国高等学校選抜自転車競技大会ケイリン52位、ロードレース出場2名 ・令和6年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会4km速度競争予選10位、ロードレース出場2名
高校サッカー部	・地区選抜U16研修大会2名選出・東京都第3地区新人選手権大会ベスト16 ・東京都第3地区ユースリーグ1部9位
柔道部	・第6回文武両道杯全国高校柔道大会出場 ・第70回東京都中学校新人柔道大会第2ブロック予選会団体戦準優勝・東京都高等学校第3支部学年別柔道大会2年生の部3位 ・第2回関東高等学校選抜柔道大会東京都第3支部予選会男子73kg級準優勝 ・第47回全国高等学校柔道選手権大会東京都第3支部予選会男子81kg級3位
囲碁部	・（高校）第48回東京都高等学校文化祭 囲碁部門大会（第40回）関東大会選抜個人戦 8位
卓球部	・新宿区中学校新人卓球大会シングルス部優勝、団体の部準優勝
写真部	・第49回日本写真協会写真公募展18歳以下部門優秀賞 ・第31回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園」東京ブロック審査会出場 ・第52回東京私立中学高等学校生徒写真・美術展特選2名、入選1名 ・第15回高校生デジタルフォトコンテストグランプリ受賞
美術部	・全日本学生美術展 佳作入賞2名、特選2名 ・私立中学高校生美術展 奨励賞2名
鉄道研究部	・第13回 全国高校生地方鉄道交流会 at伊賀鉄道【企画部門】 伊賀市長賞 ・全国高等学校鉄道模型コンテスト2024全国大会モジュール部門ベストクリエイティブ賞

14. 「希望する進路実現」を可能にする進路指導

本校は、2021 年度に完全中高一貫校になりました。中1・中2を「基礎学力養成期」、中3・高1を「進路決定期」、高2・高3を「実力完成期」と位置づけて、学習・進路指導を行っています。

14-1 完全中高一貫校の教育再編成と進学指導

ここ 10 数年で大学入学者選抜は大きく様変わりしました。2025 年度の大学入学者選抜から、新しい学習指導要領を反映した「共通テスト」に移行しました。

こうした一連の変化を受けて、本校では完全中高一貫校の教育課程を再編成するとともに「シラバス」を作成・発行しています。また、大学入学者選抜の最新情報を共有しながら、先を見通して学習を進めることができる環境作りに取り組んでいます。

14-2 英検準会場実施

近年の大学入学者選抜では、英語民間試験利用型が増えていきます。しかし、実用英語技能検定（英検）の本会場試験は、日曜日に実施されるため、部活動の公式戦と重なることも少なくありません。そこで、文武両道の実践、受験機会の保障の観点から、2017 年度より準会場試験（本校会場・金曜日実施）を開始しました。

14-3 「未来の履歴書」（高1）

「未来の履歴書」は、本校オリジナルの課題です。架空の履歴書を作成することで、キャリア形成の過程に必要な学歴・資格・経験を考えるきっかけにします。科目の好悪、得意・不得意ではなく、将来何をしたいかをまず考えて、科目選択・コース選択をしてほしいという願いで設計しました。開発から20年近く経ちますが、なかには、「未来の履歴書」で描いたとおりのキャリアを歩むOBもいます。

14-4 学力学習実態調査（中1～高2）

ベネッセの「学力推移調査」（中学校・春と秋）・「スタディサポート」（高1／高2・春）を実施しています。これらの診断テストは、学力や学習の到達度だけでなく、学習習慣・生活習慣を確認することができるので、ホームルームや面談の資料として活用し、学習改善や生活改善を促しています。

14-5 模擬試験（高1～高3）

高1で3回、高2で5回、高3で5回の模擬試験（ベネッセ・駿台・河合塾）を校内で実施し、学習定着度の把握と、志望校決定の材料として活用しています。模擬試験の結果は、校内で分析して課題を共有するとともに、生徒にフィードバックして、生徒の主体的な学びを促しています。

14-6 「大学進学のための参考資料」

「大学進学のための参考資料」は、進路指導の手引きです。新旧入試制度の解説のほか、本校卒業生の合格体験記や、大学合格結果と、校内成績・模擬試験結果・英検合格結果を照合した資料を掲載しています。大学受験は、現在地と目的地の把握と、ルートや移動手段の適切な選択が必要です。卒業生の貴重なデータは、進路実現の経路を示す、いわば「地図」のようなものです。こうした「地図」を校内で共有することで、在校生に、現時点の課題と将来の到達点を認識させ、自律的・内発的な学習を促しています。

14-7 キャンパス見学（高1～高2）

本校は、徒歩圏に早稲田大学や東京理科大学があり、他の大学にも比較的短時間でアクセスできます。こうした好立地をいかし、オープン・キャンパスの参加を促しています。

14-8 高大連携

昨今、高等学校と大学が協力しながら教育を行う高大連携が進んでいます。本校では、東京大学や千葉大学をはじめ、様々な大学と連携して、模擬講義のほか、研究室見学や巡検・フィールドワークを企画して、大学教育の一端を体感する機会を作っています。本校では、幾つかの大学と連携して、キャリア教育を行っています。講演会だけでなく、東京大学オープンラボ（研究室見学・実験）や奈良大学のGIS (Geographic Information System) 講習会・巡検のような、体験型の大学連携も企画して、大学教育の一端を垣間見る機会を作っています。

14-9 キャリア教育

2022年度より、グローバル・キャリア教育を担当する部署を設置し、キャリア教育を推進しています。「住友商事キャリア教育支援プログラム」をはじめ、社会人・卒業生を招いた講演会・ワークショップを実施してきました。

また、本校は「学びのイノベーション・プラットフォーム（PLIJ）」の特別会員でもあります。今後も企業や大学、地域との連携をより一層深めつつ、受験勉強を越えて「働くこと」、「学ぶこと」の意義を考えてもらうような活動を実施していく予定です。

14-10 進学講習（受講料無料）

高校では、1学期終了直後の2～3週間を「夏期進学講習」期間としています。また、2学期終業式前後の1週間を「冬期進学講習」期間としています。いずれも希望者を対象に、最近の大学入試問題の演習・解説を中心として、短期集中で実力の養成を図っています。高1の講習は、網羅的に講座設定されているため、志望校を絞り込めていない生徒でも受講しやすくなっています。高2の講習は、講座設定を細分化することによって、単元別あるいは習熟度別を選択できるよう配慮されています。高3の講習は、大学受験に直結した講座を中心に設定しています。1講座は110分授業を3日間行います。また英検などの講座は、中学生でも受講できるように設定しています。

2024年度夏期進学講習

	講座名	1	2	3		講座名	1	2	3
英語	英検2級対策	○	○	○	数学	複素数平面 標準／発展			理
	英語総合	○	○	○		数学Ⅲ微積分 標準／発展			理
	英検準1級対策	○	○	○		離散数学①／②			理
	英語長文読解 ①／②／③-2／③-3／④		○	○	地歴公民	伊豆大島野外調査	○	○	
	英文法・語法 ①／②		○	○		ざっくりヨーロッパ史	○	○	○
	共通テスト英語 (L) / (R)		○	○		ヨーロッパ近世文化史	○	○	○
	英作文-2			○		ざっくり西アジア史／中国史	○	○	○
	英語長文読解特講			理		私大入試問題演習・古代・中世		○	○
	理系英語長文読解			理		共通テスト地理／東大地理		○	○
	早大理工英語長文読解			理		地理（自然環境編）		○	○
国語	現代文 基礎／標準／発展	○				ざっくり日本文化史		文	文
	古文 基礎／標準／発展	○				共通テスト政治経済			○
	小論文基礎	○	○	○		農業地理①／② 工業地理①／③			文
	共通テスト 評論対策／小説対策		○			私大入試問題演習・中世・近世			文
	私大現代文		○		理科	物理基礎／生物基礎演習①②	○		
	漢文句法／古文読解／漢文読解／古文文法		○	○		生物実験／化学実験	○	○	○
	共通テスト 漢文／古文／古典		○	○		化学演習①／②		○	
	古典読解／古典文法／		○	○		理論化学基礎ドリル①②		理	
	中堅私大現代文／難関私大対策現代文			○		物理(力学)／(波動)／		理	
	私大対策古文			文		生物基礎演習		文	文
						生物演習①／②／③		理	理
						物理演習 A/B			理
						有機化学基礎ドリル①／②			理
数学	場合の数・確率 標準／発展	○	○	○		物理演習(電磁気)／(力学)／(熱・波動)			理
	2次関数 基礎／標準／発展	○	○	○		理論化学①／② 無機化学①／②			理
	図形と計量 基礎／標準／発展	○	○	○	芸術情報	音大受験対策(楽典ソルフェージュ)	○	○	○
	共通テスト I A	○	○	○		共通テスト情報対策		○	○
	数列 標準／発展 ベクトル 標準／発展		○	○					
	共通テスト II BC		○	○					
	関数①／② 図形① 数学Ⅱ微積分		○	○					
	図形と方程式 標準		○	○					
	いろいろな関数 標準／発展		○	○					

2024年度冬期進学講習

	講座名	1	2	3		講座名	1	2	3
英語	英語総合	○			数学	共通テストⅠA 数列 標準/発展	○	○	○
	共通テスト英語入門	○	○			図形と計量 標準/発展	○	○	○
	英検英作文	○	○			図形と方程式 標準/発展	○	○	○
	英語長文読解	○	○	○		場合の数・確率	○	○	○
	英検準2級対策	○	○	○		数Ⅱ微積分 標準/発展		○	○
	英検2級対策	○	○	○		ベクトル 標準/発展		○	○
	英検準1級対策	○	○	○		共通テストⅡBC		○	○
	英語長文読解		○	○		図形/関数			○
国語	古文基礎/漢文	○			理科	離散数学			○
	現代文標準/古文標準	○				数学Ⅲ演習 標準/発展			理
	共通テスト評論		○			生物基礎演習	○		
	共通テスト小説		○			物理基礎(標準)	○		
	私大対策		○			化学演習		理	
	共通テスト古文		○	○		化学ドリル		○	○
	漢文読解		○	○		生物基礎演習		文	文
	古典読解		○	○		物理(熱力学)／(力学)		理	理
	古文読解		○	○		生物演習		理	理
	難関私大古典			○		物理演習(波動)		理	理
地歴公民	世界史論述入門		○		芸術情報	化学(共通テスト)			理
	東大地理		○			物理演習(電磁気)			理
	共通テスト地理		○			和声(コード)	○	○	
	私大対策地理			○		音大受験の祭典	○	○	
	地域紛争の現代史			○		STEM講習	○	○	○
	日本史私大演習			○					
	共通テスト日本史対策			○					
	一橋大地理			○					

14-11 講座制授業（高３）

高３の授業は２学期で終了しますが、受験を間近に控えた３学期には、自由選択制の講座制授業を実施しています。共通テスト直前対策など、受験直前対策講座として、希望者の多少にかかわらず各教科の講座を開講しています。また、体育や理科の基礎実験なども開設することがあり、生徒たちは、受験勉強で疲れた心身のリフレッシュや大学入学後の下準備としても活用しています。

2024 年度講座制授業実施例

国語	難関私大古文演習	理科	共通テスト化学①②
地歴	日本史		共通テスト化学基礎
公民	日本史演習		共通テスト地学基礎
数学	数学Ⅲ・C 演習 (X) (Y)	英語	共通テスト英語リーディング
	難関大学数学Ⅲ・C 演習 (X) (Y)		共通テストリスニング
	微分方程式入門①②	体育	体育(グラウンド)
	数学演習 (A) (B) (C)		体育(体育館)
	数学演習		
	数学 B 統計的な推測演習(予備)		
	数学 B 統計的な推測演習		

14-12 進路志望状況

例年、本校生徒のほぼ全員が大学進学を志望しています。2025年卒業生の、共通テスト出願率は99.6%でした。

14-13 現役合格率の推移

本校は、「希望する進路実現」を目指しています。現役合格率は、難関大学志望者の増減といった内部要因だけでなく、大学定員の厳格化や景気の動向など外部要因によっても変化しますが、昨今は 85%前後で推移しています。

2025 年卒	2024 年卒	2023 年卒	2022 年卒	2021 年卒	2020 年卒
82.6%	89.7%	88.5%	89.6%	82.1%	78.3%

14-14 指定校推薦入試

学校推薦型選抜（指定校推薦）とは、大学が指定する高等学校の生徒のみが出願できる入学試験です。成績や出欠席、資格試験など、大学が指定する基準を満たせば、比較的簡単な学力試験・口頭試問や小論文で合格が認定される選抜方式です。

本校では、第一志望で、文武両道を実践してきた者を厳正に選考し、大学に推薦しています。

毎年、25名前後が指定校推薦を利用しています。

指定校推薦による進学状況

2025年度	14大学32名
2024年度	13大学25名
2023年度	11大学22名
2022年度	11大学21名
2021年度	14大学25名
2020年度	15大学26名
2019年度	17大学24名
2018年度	15大学29名

2025年度指定校推薦入試結果

大学	学部	推薦枠	進学者
早稲田大	文化構想	1	1
	人間科学	1	1
	商	1	1
	基幹理工	1	1
	創造理工	3	3
慶應義塾大	商	2	2
上智大	理工	3	3
東京理科大	経営	1	0
	薬（4年制）	1	0
	理	4	1
	創域理工	2	1
	先進工	1	0
学習院大	文	2	0
	経済	1	0
	国際社会科学	1	0
	理	4	0
明治大	経営	2	2
	理工	1	0
	総合数理	1	1
青山学院大	総合文化政策	1	0
	理工	1	0
立教大	経済	1	1
中央大	法	3	3
	経済	1	0
	商	1	0
	総合政策	1	1
	理工	3	2
法政大	法	1	1
	スポーツ健康	1	0
	理工	1	1
	デザイン工	1	0
医歯薬系 （6年制）	医学部医学科	3	1
	歯学部歯学科	9	1
	薬学部薬学科	14	0
その他を含め合計88大学		489	32

14-15 過去6年間の大学合格状況（国公立）

	2025年卒		2024年卒		2023年卒		2022年卒		2021年卒		2020年卒	
	総数	現役	総数	現役	総数	現役	総数	現役	総数	現役	総数	現役
東京大	1	1	3	1	2	2	1	0	1	1	0	0
京都大	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東京科学大	0	0	3	2	1	1	4	2	1	1	2	2
一橋大	2	2	3	3	1	0	0	0	0	0	1	1
北海道大	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
東北大	0	0	2	1	3	2	3	3	1	1	1	1
名古屋大	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
大阪大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州大	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0
神戸大	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
東京農工大	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1
東京学芸大	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1
東京外国語大	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	1
東京海洋大	0	0	2	2	0	0	2	2	1	0	1	1
東京芸術大	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0
電気通信大	1	0	1	1	2	1	2	2	2	2	0	0
筑波大	0	0	1	1	2	2	3	2	2	1	3	2
埼玉大	1	1	5	4	4	3	1	1	1	1	2	0
千葉大	2	2	5	4	4	4	2	0	5	2	0	0
横浜国立大	0	0	1	1	0	0	6	6	2	2	0	0
国際教養大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横浜市立大	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東京都立大	2	1	3	3	1	0	3	3	2	0	2	2
防衛大学校	0	0	3	1	2	2	1	1	1	1	2	2
その他	10	8	11	8	12	7	18	15	10	7	5	2
国公立大合計	27	21	48	37	40	27	49	40	32	21	24	17
卒業生数	247		262		253		260		252		253	

14-16 過去6年間の大学合格状況（私立）

	2025年卒		2024年卒		2023年卒		2022年卒		2021年卒		2020年卒	
	総数	現役	総数	現役	総数	現役	総数	現役	総数	現役	総数	現役
早稲田大	34	31	37	32	35	28	34	26	33	31	28	18
慶應義塾大	6	4	25	19	25	22	23	17	14	12	12	7
上智大	20	18	15	10	25	24	22	20	28	27	20	15
東京理科大	24	16	37	30	42	29	54	43	50	36	22	12
国際基督教大	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
学習院大	11	7	10	6	10	7	12	8	7	7	11	7
明治大	62	52	95	65	93	84	78	55	84	66	58	41
青山学院大	17	15	20	16	17	16	21	17	23	12	17	13
立教大	20	14	45	29	32	28	40	30	46	34	26	21
中央大	50	48	47	41	59	54	66	47	49	35	51	29
法政大	52	42	72	63	71	57	57	36	42	19	49	23
成蹊大	12	10	27	22	21	17	15	11	20	12	23	12
明治学院大	12	7	28	19	23	16	11	8	18	12	8	3
國學院大	15	11	17	14	18	14	10	6	14	10	10	5
日本大	51	40	87	56	102	67	102	69	65	43	115	57
東洋大	53	40	80	63	57	53	69	53	49	30	57	25
駒沢大	13	11	18	14	18	14	17	10	9	5	8	5
専修大	17	12	19	16	34	17	19	17	17	7	25	13
東京電機大	15	8	38	27	10	9	27	18	15	9	25	16
芝浦工大	57	43	45	33	39	24	60	41	39	28	16	12
東京都市大	16	11	38	22	27	16	14	7	17	8	8	4
同志社大	6	6	4	4	5	5	3	2	7	4	6	2
立命館大	7	7	4	3	7	4	12	10	12	5	6	3
小計	570	453	808	604	771	606	767	552	658	452	601	343
その他	341	210	385	240	376	227	651	282	398	195	313	162
私立大合計	911	663	1193	844	1147	833	1418	834	1056	647	914	505
卒業生数	247		262		253		260		252		253	

15. 入学試験

可否は4教科の合計点で判定します。教科ごとの合格基準点の設定はありません。

※高校募集は行っていません。

15-1 出題方針

国語（100点満点・50分）	社会（60点満点・30分）
読解力・表現力など、基礎的な力を見ることに重点を置いて出題しています。基礎力というのは、日本語を正しく理解し、表現する力のことです。だれが、いつ、どこで、どうしたのか。何を感じ、何を考え、何を言いたいのか。このようなことを理解し、自分の言葉にすることによって、人と人とのコミュニケーションが生まれ、知識の伝達も可能になります。そのような、日本語を正しく理解して表現するための力と、正確な読解力とを問う問題を出題します。日ごろ、いろいろな事柄に興味を持ち、どのような分野の文章にも対応できるようにしておいてほしいと思います。また、小説もたくさん読んでおくことをお勧めします。 出題形式について説明します。例年、最初に漢字の読み書きや語彙、表現について出題しています。漢字は、字のバランスや部首に注意し、一画一画を丁寧にはっきりと書く習慣をつけてください。その他に、ことわざや故事成語、文法や表現についても幅広く学習しておきましょう。文章題は、小説や評論から大問を2題出題しています。時間の許す限り丁寧に文章を読み、設問の内容に正しく答えてください。また、数十字程度の記述問題も出題しているので、記述対策も忘れずにやってください。	人々の暮らしを成り立たせている様々な背景や条件について、どのくらい関心を持って学んできたかを問いたいと考えています。基本的な知識はもとより、広く中学校や高等学校への学習意欲のつながりをも視野に入れた応用性のある問題も出題します。メディアのニュースや新聞記事などにも日ごろから興味を持ってほしいと思います。 出題形式は、例年、地理・歴史・公民の3分野からそれぞれ大問1題、配点は3分野20点ずつです。地形図に関する問題や時事問題は、ほぼ毎年出題しています。記述問題で地名・人名・歴史用語などの漢字で書くべき重要語句を平仮名や片仮名で解答したり、漢字で解答した上で振り仮名を振ったりすると、減点または不正解となります。全ての問題について、解答するときは問題文中の指示に従うように心がけてください。なお、記号問題も多く出題しますが、記号を丁寧に書いてください。
算数（100点満点・50分）	理科（60点満点・30分）
計算・比の扱い・割合・規則性・数の性質・グラフ・面積・体積などから幅広く出題し、計算力をはじめ、比・割合の概念および図形の考察など基礎となる考え方が身についているかを問います。基本イコールやさしい、ということではありませんので、基本理解の徹底とじっくり考える姿勢が重要になります。実際に、基本レベルの問題の正解率が低くなっています。試験では、問題をしっかりと把握した上で解くことを心がけてください。解答は答えのみを記入する形式ですから、計算間違いに気をつけてください。また、数字は丁寧に書いてください。判別しにくい数字を書いて、不正解になるケースがふえています。 ※2024年度の入試より、「設定が多い問題に対して、じっくり取り組んでほしい」という思いから、問題の構成を変更し、大問の数を減らしました。	理科の基礎的な知識があるか、実験データを読み取り法則を見つけ出す力があるか、様々な起こる自然現象に関心があるかという点を意識した問題を出題します。したがって、標準的な知識を選択式で問う問題を多く出題しますが、やや高度な実験考察問題も出題します。また、20字程度で説明する問題やその年の科学トピックスに関連した問題を出題することがあります。解答するときは、問題文中の指示に従うよう心がけてください。物質の名前などは、漢字指定することがあります。計算問題は、答えのみが採点の対象となりますので、計算間違いに気をつけるとともに、どの位を四捨五入すればよいか、問題文を読んでしっかり見直すようにしてください。大問は3題で、各大問の配点は、ほぼ20点です。

15-2 2025年度入学試験結果

第1回（2月1日）

募集人員	応募者数	受験者数	合格者数	実質倍率
男子 100 名	443	393	132	3.0
	受験者平均点	合格者平均点	合格者最高点	合格者最低点
国語 100 点	41.5	48.8	74	28
算数 100 点	58.6	73.0	100	48
社会 60 点	38.2	43.5	58	29
理科 60 点	28.5	33.9	51	18
合計 320 点	166.9	199.1	259	180

第2回（2月3日）

募集人員	応募者数	受験者数	合格者数	実質倍率
男子 140 名	1093	729	231	3.2
	受験者平均点	合格者平均点	合格者最高点	合格者最低点
国語 100 点	51.9	61.0	86	33
算数 100 点	67.2	81.7	100	59
社会 60 点	33.6	38.9	57	21
理科 60 点	27.1	33.7	55	19
合計 320 点	179.9	215.3	261	198

第3回（2月5日）

募集人員	応募者数	受験者数	合格者数	実質倍率
男子 40 名	767	407	60	6.8
	受験者平均点	合格者平均点	合格者最高点	合格者最低点
国語 100 点	62.7	73.7	91	51
算数 100 点	51.6	72.9	100	41
社会 60 点	27.8	36.9	55	20
理科 60 点	25.0	34.3	49	14
合計 320 点	167.2	217.8	253	201

16. 通学圏

本校は、都営大江戸線「牛込柳町」駅西口出口から徒歩1分に立地し、大通りや繁華街を通ることなく安全に通学できます。
都営大江戸線は、主要各線と接続するため、近県からも多くの生徒が通学しており、平均通学時間は約1時間です。

16-1 居住地別生徒数（2025 年度）

	中	高	計
全校生	839	757	1596

	中	高	計
東京都	636	574	1210
文京区	53	52	105
世田谷区	46	52	98
練馬区	45	53	98
新宿区	45	51	96
江東区	54	40	94
杉並区	50	44	94
板橋区	31	35	66
豊島区	32	25	57
江戸川区	27	23	50
中央区	25	22	47
北区	23	23	46
中野区	29	16	45
大田区	27	18	45
目黒区	24	12	36
港区	21	14	35
足立区	22	11	33
渋谷区	19	10	29
品川区	12	16	28
葛飾区	10	17	27
荒川区	11	15	26
台東区	15	9	24
墨田区	8	9	17
千代田区	7	7	14

	中	高	計
東京都	72	68	140
武蔵野市	6	16	22
調布市	12	5	17
三鷹市	9	6	15
西東京市	8	6	14
国分寺市	5	7	12
東久留米市	7	4	11
小平市	6	4	10
府中市	5	2	7
小金井市	3	2	5
狛江市	3	2	5
東村山市	1	4	5
町田市	1	3	4
国立市	2	1	3
稲城市	0	3	3
多摩市	2	0	2
清瀬市	1	1	2
八王子市	1	0	1
立川市	0	1	1
福生市	0	1	1

	中	高	計
埼玉県	42	44	86
さいたま市	11	12	23
川口市	6	6	12
所沢市	6	5	11
志木市	5	1	6
朝霞市	3	3	6
和光市	2	3	5
戸田市	1	3	4
入間市	2	1	3
新座市	0	3	3
八潮市	2	0	2
越谷市	1	1	2
草加市	0	2	2
富士見市	1	0	1
春日部市	1	0	1
蕨市	1	0	1
上尾市	0	1	1
ふじみ野市	0	1	1
鴻巣市	0	1	1
鶴ヶ島市	0	1	1

	中	高	計
千葉県	55	37	92
市川市	16	15	31
浦安市	11	8	19
船橋市	11	6	17
千葉市	4	2	6
柏市	5	0	5
松戸市	3	1	4
流山市	1	3	4
習志野市	1	1	2
我孫子市	1	1	2
成田市	1	0	1
八千代市	1	0	1

	中	高	計
神奈川県	30	35	65
川崎市	16	19	35
横浜市	11	16	27
厚木市	1	0	1
相模原市	1	0	1
座間市	1	0	1

	中	高	計
群馬県	1	0	1
前橋市	1	0	1

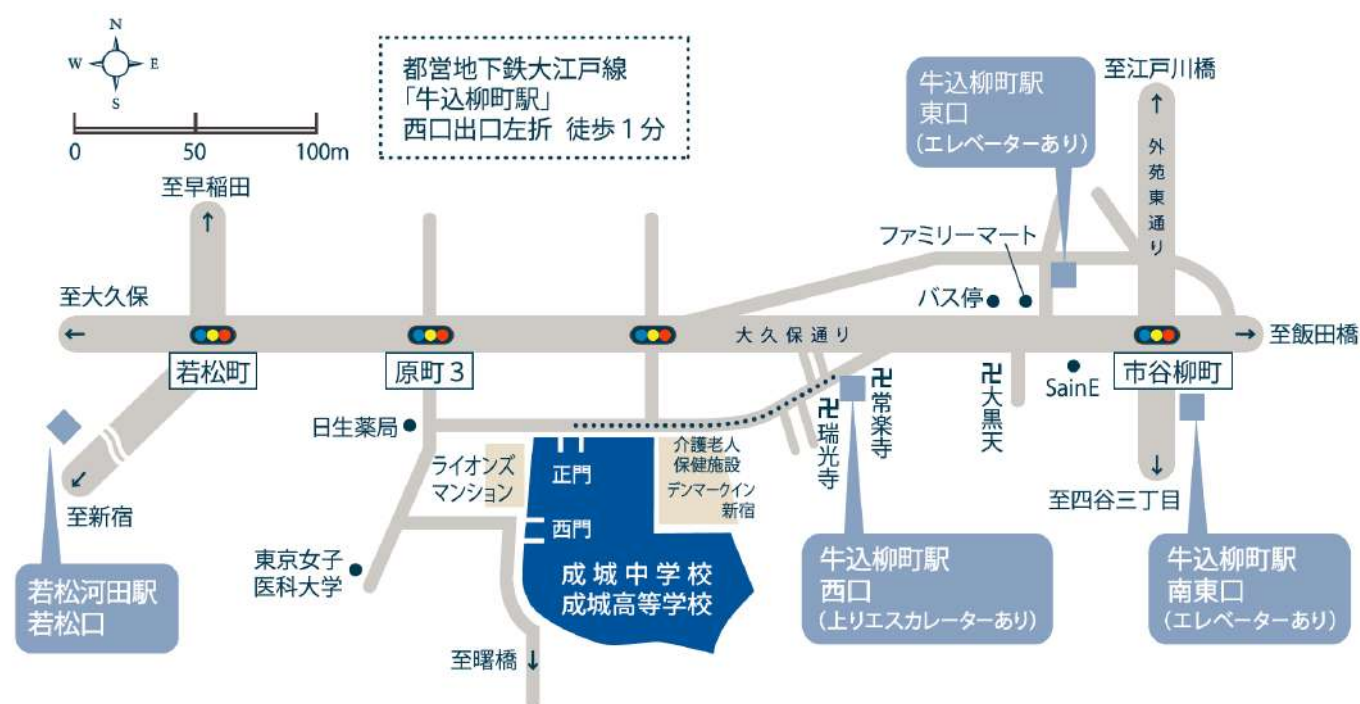
	中	高	計
茨城県	3	0	3
取手市	2	0	2
常総市	1	0	1

16-2 「牛込柳町」駅までの所要時間

武蔵小杉	33 分	西高島平	38 分	二俣川	65 分
二子玉川	37 分	大宮	45 分	新木場	34 分
横浜	46 分	浦和美園	49 分	西船橋	49 分
戸塚	59 分	所沢	51 分	千葉	62 分
町田	51 分	春日部	59 分	海浜幕張	58 分
八王子	59 分	川越	63 分	取手	57 分

平日の通学時間帯の時刻表に基づきます。乗りかえに要する時間を含みます。

16-3 学校周辺図



16-4 都営大江戸線路線図



17. 諸経費

寄附金・学校債はありません。保護者の経済事情の急変の際は、学費等減免措置を受けられることがあります。なお、高等学校においては、公立と同等の就学支援金が支給されます。

詳しくは文部科学省公式サイト（www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/）をご覧ください。

[入学手続時納付金（2025年度）]

- ・ 入学金 280,000円（高校入学時 200,000円）

[年間納付金（2025年度）]

- ・ 授業料 480,000円（年額）（月額：40,000円）
- ・ 維持費 198,000円（年額）（月額：16,500円）
- ・ 施設費（入学時のみ） 120,000円（高校入学時 120,000円）
- ・ 生徒会入会金（中学入学時のみ） 1,000円
- ・ 生徒会費 9,600円（年額）
- ・ 師親会入会金（中学入学時のみ） 1,000円
- ・ 師親会費 7,200円（年額）（月額：600円）

各学年納付金合計（上記入学手続時納付金・年間納付金）

中 1	1,096,800円
中 2	634,800円
中 3	634,800円
高 1	1,016,800円
高 2	634,800円
高 3	634,800円
合計	4,652,800円

[その他の経費]

- ・ 副教材費（デジタルコンテンツ含む） 約70,000円（年額）
- ・ 行事・その他諸経費 約25,000円（年額）
- ・ 春季校外課業費（宿泊が伴う場合） 約25,000円
- ・ 臨海学校費（中 1 のみ） 約48,000円
- ・ 林間学校費（中 2 のみ） 約43,000円
- ・ 修学旅行費（中高とも） 約110,000～150,000円

[指定学用品]

- ・ 学生服 31,300円～34,400円
- ・ 校内用サンダル（上履き） 2,700円
- ・ 体育着 Tシャツ S～4L 4,200円
- ・ ジャージ上 S～4L 8,800円
- ・ ジャージ下 S～4L 6,300円
- ・ ハーフパンツ S～4L 5,000円
- ・ 体育館履き 3,600円
- ・ 水着 2,200円
- ・ スクールベスト（購入は任意） 6,270円
- ・ ビブスゼッケン 2,200円

18. よくあるご質問

学校説明会などで多く伺うご質問をまとめました。

18-1 学校生活について

Q. 男子校のよさは何ですか

A. 発達段階には性差があり、本校では男子の発達段階に応じた教育課程を編成し、社会に貢献するたくましい男子を育てたいと考えています。小学校高学年から中1までは女子の方が発達が早く、男子はのんびりしている傾向が見られます。しかし、中2頃から声が変わり、徐々に自分で考え自分で行動する力を身につけ、友人やライバルと切磋琢磨するようになります。男子は目標が決まると急速に成長するのが特徴です。そのため、本校では中3から進路指導・キャリア教育を始めています。高校生は学年が上がるにつれ、心身ともに成長し、自分のことだけでなく、他者に対する敬愛や、社会に貢献するに足る実力をつけていきます。

男子校のよさの1つは、一生の友人と出会えることでしょう。自分を包み隠さず、良いところも悪いところもすべて見せ合い、共に助け合い、共に成長した仲間は、かけがえのない存在になります。

Q. クラスの人数はどれくらいですか

A. 中高とも40名程度です。詳しくはp.5をご覧ください。

Q. クラス替えはどれくらいの頻度で行われますか

A. 毎年、学力が均等になるように実施しています。詳しくはp.5をご覧ください。

Q. 先取り学習は行っていますか

A. 本校では「単元別先取り授業」を行っています。詳しくはp.8をご覧ください。

Q. 補習は行っていますか

A. 主に基礎学力養成期である中1～中2に実施しています。詳しくはp.8をご覧ください。

Q. テストの成績は校内に貼り出されたりしますか

A. 本校では、年5回のテスト（考査と呼びます）の結果を校内に貼り出すことはしません。

Q. 自修館の利用状況はどうか

A. 朝7時30分から開館し、始業前は学年を問わず多くの生徒が利用しています。放課後は18時30分まで開館し、高3を中心に、その他の学年の生徒も利用しています。試験の2週間前ぐらいからは多数の生徒が利用している状況で、試験の1週間前からは別室の自習室が開室されます。

また、生徒たちの中には自修館ではなく図書館の閲覧コーナーや営業を終了したカフェテリアのスペースで学習をする者もあり、多くの生徒たちが「自学自習」の校訓を実践しています。

Q. 中学校から高等学校への進学に条件はありますか

A. 成城中学校から成城高等学校に進学するにあたり、試験や課題は設けておりませんが、高等学校進学後は進級規定があります。他の高等学校を受験する場合、成城高等学校への進学はできません。

Q. 入学後に転出した場合転入できますか

A. 保護者の転勤に伴う転居などの理由で他校に転出後、戻ることがあらかじめわかっている場合、本校に転入することができます。中学校在学中に転出し、高等学校に転入することもできます。詳しくは個別にお問い合わせください。

Q. クラブの朝練はありますか

A. 運動部の公式戦の直前などに行われるほか、自主練習の形で行われることもあります。活動時間は、朝7時30分から8時15分までを原則としています。

Q. クラブ見学会や体験会はありますか

A. 特に体験会は行っておりませんが、クラブ見学会は例年10月から11月頃に実施しています。詳細は本校公式サイトに掲載します。

Q. 成城大学・成城学園との関係はありますか

A. 本校の第9代校長である澤柳政太郎が在任中に成城尋常小学校を開校し、後に成城第二中学校が併設されました。1925（大正14）年にこの2校が移転し、後に成城学園となりました。成城大学はこの成城学園が経営する大学ですので、本校とのかかわりはありません。

Q. 学校で使用するタブレットは購入ですか

A. 中学生にはタブレットを貸与していますが、高校入学時にタブレットを購入いただいております。

18-2 学費等について

Q. 特待生制度や学費の減免措置はありますか

A. 特待生制度はありません。家庭の経済事情の急変の際は、学費等の減免措置制度を利用できる場合があります。

Q. 寄附金や学校債がないというのは本当ですか

A. 寄附金や学校債はありません。諸経費の詳細は、本資料の p.30 に掲載していますので、ご覧ください。

18-3 入学試験等について

※変更がある場合は、本校公式サイト（<https://www.seijogakko.ed.jp>）にて公表します。また、9月以降の学校説明会などでお話しさせていただきます。

Q. 生徒募集要項はいつどうやって入手できますか

A. 生徒募集要項は、9月以降、本校公式サイトに掲載します。また、2学期以降の学校説明会等で無料配布します。それ以外でも、本校公式サイトからご請求いただくか、ご来校の際に事務窓口でお渡しすることもできます。

Q. 入学試験の難易度は回によって異なりますか

A. どの回も難易度がほぼ同じになるように問題作成しています。

Q. 入学試験はWeb出願ですか

A. 入学試験はWeb出願のみになります。Web出願の詳細につきましては9月以降本校公式サイトをご覧ください。

学校説明会等日程

※詳細は本校公式サイト（<https://www.seijogakko.ed.jp/>）をご覧ください。

学校見学会		
第1回	5月31日（土）09:50～11:20	本校小講堂にて開催。予約制（本校公式サイトでお申込みください）。
第2回	6月21日（土）09:50～11:20	上履きは不要です。 第1回と第2回は、同内容の予定です。
学校説明会		
第1回	9月24日（水）09:50～11:20	本校小講堂にて開催。予約制（本校公式サイトでお申込みください）。
第2回	10月18日（土）09:50～11:20	上履きは不要です。
第3回	10月29日（水）09:50～11:20	第1回から第6回まで、すべて同内容の予定です。
第4回	11月 8日（土）09:50～11:20	
第5回	11月29日（土）09:50～11:20	
第6回	1月10日（土）09:50～11:20	
成城祭（文化祭）		
	9月13日（土）	本校にて開催。
	9月14日（日）	ミニ説明会、個別相談コーナーを開設します。上履きは不要です。



成城中学校・成城高等学校

〒162-8670 東京都新宿区原町 3－8 7
都営地下鉄大江戸線「牛込柳町」駅徒歩 1 分
TEL 03-3341-6141 FAX 03-3341-3165

www.seijogakko.ed.jp